

赤穂未来創造委員会 第2回福祉・環境・安心部会 <資料>

1 前回の部会における意見の整理

【福祉対策】

- ・潜在化しているニーズを行政に結びつける、必要としている人に周知できるような仕組みづくりを。

【子育て対策】

- ・子どもを安心して出産できる環境を整えることが、まちのアピールにもなる。是非とも市民病院の産科の再開が必要。
- ・赤穂市だけでなく備前市や上郡町をはじめ、圏域住民の利便性も非常に高い。中央病院だけでなく、市民病院でも出産ができる体制を整えてもらいたい。
- ・現状は非常に厳しいものがあるが、安心して子どもを産み育てることのできるまちを目指すのであれば、市民病院で出産できるよう、環境整備が必要。
- ・子育ては大変なものというネガティブなイメージがついている。もっと子育ての楽しさをアピールしていくことも必要。
- ・赤穂市は現在も十分すぎるほどのサービス（施策）が整っている。一方で、母親の産前産後のケアについて今後力を入れてもらいたい。出産から子育てまで切れ目のない支援を。

【高齢者対策】

- ・今後の高齢者の増加に対応するよう、介護分野の人材育成を。外国人が介護現場を支えるようになるのではないか。
- ・介護予防事業の充実を。要介護にならない、元気な高齢者を増やす。認知症カフェやサロンの拡充を。
- ・高齢者がこれまでの経験を生かして地域社会に生かすような仕組みづくりを。元気な高齢者を生かす施策が必要。
- ・地域の幼稚園や学校での高齢者の活用を促進する。また、地域の公民館を活用して、子どもから高齢者まで活動を共にする機会づくりを。

【環境対策】

- ・子どもから高齢者まで、川に親しむことができるような河川敷の整備を。沖田遺跡を活用した取組みを。
- ・粗大ごみの減量化を進めるため、民間資金を活用してリユース事業を推進する。
- ・西有年の産廃については反対である。環境保全を。
- ・天和にも産廃が計画されている。牡蠣などの特産物に影響を与えかねない。産廃処分場を造って、将来よかったということには絶対にならない。
- ・産廃のことをあまり身近に感じていない人もいる。もっと若い人やお母さん方に知っても

らう必要があるのでは。

- ・ごみの減量化については、痛みを伴わなければ実行されないのでは。ごみ袋を有料化してはどうか。

【安全安心対策】

- ・防災行政無線の音が聞こえないことが多い。必要な情報が市民に届くようにしていく工夫が必要。

【その他】

- ・水道、下水道、公共施設等、人口減少に適応した見直しが必要。コンパクト化とネットワーク化を進めていく。
- ・定住人口の維持、増加ということになれば、住みよいまち、子育てしやすいまちづくりが必要。
- ・子育て施策は十分すぎるし、水道料金も安く、非常に施策が充実してるが、一方で市のPRが不足しているのではないか。

2 基本的な方向性のまとめ

○安心して出産し、子育てしやすい体制づくり

〔市民病院の産科の再開〕〔出産から子育てまで切れ目のない支援〕

○元気な高齢者を増やす

〔介護予防の充実〕

○高齢者の生きがいづくりと活躍できる場をつくる

〔これまでの経験と知恵を地域で生かす〕

※産廃処分場問題への対応



人口が減っても活力が維持できるまち